

2020年度 事業報告

目的・目標	計画・具体策	評価
【役員会】		
<p>目的：地域における助産師会活動の将来を見据えた構想を思考した社会貢献を行う。</p> <p>1.市町村訪問事業について行政と契約交渉を行い正当な方法で運営する。</p> <p>2.助産師として、産後ケアに必要な知識とスキルを習得したエキスパートの育成を目指す</p> <p>3.健康教育に必要な知識とスキルを習得したエキスパート助産師を育成する。</p> <p>4.ホームページの活用促進と部会を超えて会員交流を図ることができる。</p> <p>5.勤務部会が参加できる活動や企画を考えて交流を図る。</p> <p>6.クローブミップ・更新の申請と評価に協力する 会員数：160名を目指す</p> <p>7.事務局の建物維持、将来に向けて運営検討案作成（耐震、修理、転居等）</p>	<p>1.市町村訪問の契約法改定</p> <p>2.個人情報保護法の実施</p> <p>3.女性・子育て支援センター事業に代わる事業活動の活発化、理事会開催 近畿代表者会議、総会</p> <p>4.会員（特に勤務部会）が楽しく参加できる事業の開催</p> <p>5.役員会参加</p> <p>6.アドバンス評価協力</p> <p>7.事務局の建物維持、将来に向けて運営検討案作成（耐震、修理、転居等）</p>	<p>新型コロナ感染拡大と共に、2020年事業計画発案当初とは社会情勢が、役員会の事業計画も大幅に変化しており、計画通り遂行されていない現状である。</p> <p>1.橿原市に要望書及び具体的契約料更新のための計算書を提出するが、改定されず</p> <p>2.今年度は、人権研修を実施した。</p> <p>3.コロナ禍のため、事業活動は停止。会議については、web会議開催となる</p> <p>4.開催出来ず</p> <p>5.Webを活用しながら、開催する事が出来た</p> <p>6.今年度のアドバンス更新は終了した</p> <p>目標にある産後ケアエキスパート助産師は、今年度、日本助産師会の認定者を出すことが出来た。</p> <p>7.事務局については、会の活動が正常に戻る迄は、現状維持。事務局の定期的な清掃等の管理を実施</p> <p>【追加】</p> <p>8.新ホームページ開設</p> <p>9.コロナ感染予防対策用の衛生材料の調達</p> <p>10.会員 歴代各種表彰受賞者一覧を作成。推薦基準を作成し、推薦者を選出しやすくした</p>

目的・目標	計画・具体策	評価
【助産所部会】		
1) 助産院において質の向上を図り、事故防止に努める	1)-1 部会への参加を啓発する 1)-2 部会での事例検討会を行い、情報の共有化を図り事故防止に努める 1)-3 部会主催研修会の充実 1)-4 日助、都道府県助産師会、助産学会、看護協会等の研修会の周知を図り参加啓蒙に努める	1) コロナによる研修参加・部会開催・助産所運営等の対応として、部会はオンラインで開催。対面での開催時は、コロナ対策に留意した。部会時に事例検討をしたが、事例に応じた十分な検討ができないものがあつた。助産診断能力の向上を図り、情報共有したことを各助産所が具体的に生かせるように充実した内容の事例検討を行うことを次年度の課題とした。
2) 嘱託医療機関の確保に努める	2)-1 医療機関のカンファレンス実施の情報収集と参加啓蒙する 2)-2 医療機関への訪問挨拶	2) 医療機関への訪問挨拶はコロナ感染拡大防止のため行わなかつた。部会主催の「周産期における出血と対応」研修会を行った。後方支援病院主催の研修会参加率が100%ではなかつたので、次年度は周知徹底して参加率を上げていく。
3) 産前産後ケアの充実と発展に努める	3)-1 産前産後ケアに関する情報の共有化。奈良県下の市町村との産前産後ケアの提携の構築に努める 3)-2 産前産後ケア充実のため行政への訪問挨拶	3) 情報の共有化は不十分であつた。行政への訪問挨拶はコロナ感染拡大防止のため行わなかつた。
4) 日本助産評価機構の認定申請に向けて研鑽する	4)-1 認定のための説明受講	4) 認定に向けて情報収集中。 アドバ ンス助産師の初更新時期を迎え、5名が更新認定を受けた。
5) 後輩育成のため、若手助産師及び学生指導に努める	5)-1 学生実習を受け入れ、助産倫理に基づき質の高い指導を行う 5)-2 他施設助産師との交流・研修会	5) 学校側からコロナ感染拡大防止防止のため、中止の申し入れがあつたところもあり例年より受け入れは少なかつたが、受け入れる際にはコロナ対策を講じながら学校側と協力して（オンラインなど）臨んだ
6) 個人情報保護法に基づき情報の保護に努める	6)-1 個人情報を個人情報保護ガイダンスに準じ保護する 6)-2 個人情報保護に関する研修会の参加	6) 各助産所に一任した

目的・目標	計画・具体策	評価
【保健指導部会】		
<p>目的1.地域での母子保健活動が円滑に実施でき新しい分野での活動が行える</p> <p>1.安全で安心な保健指導・母乳育児支行う。</p> <p>2.地域母子保健に携わる助産師としての質の向上を図る</p> <p>3.都道府県助産師会保健指導部会との連携を強化する。</p> <p>4.地域における医療機関や行政、関係機関との連携を図る</p> <p>5.保健指導部会会員数の確保を目指す。</p>	<p>1.①母乳育児支援自己評価の実施。 ②訪問時インシデント・アクシデント体験報告書のデータ収集を行う。 ③データを分析し、マニュアル（分析集）を作成する。</p> <p>2.奈良県助産師会研修会や日本助産師会研修会に参加し、自己研鑽に努める。</p> <p>3.各地区研修会の部会集會に参加し、ネットワークを強化する。</p> <p>4.市町村訪問指導者会議や周産期連携会議に出席し、各市町村の動向・会からの連絡を行い市町村と会との調整役割を担う。</p> <p>5.HP・現会員への声かけを継続的に行い、会の活性化を目的とした部会員増加を目指す。</p>	<p>1.①母乳育児支援自己評価表は毎年本部より評価集計依頼あり。今年度の回収率は50%以下であった。 ②訪問時のトラブルデータ集計は安全対策委と共同で行っており、今年度も報告の共有は行っていた。 ③分析作業・マニュアル作成は今年度は次年度課題として、安全対策委員と計画中である。</p> <p>2.訪問指導員は指導員証発行条件があるため、受講状態の確認は行っているが、保健指導部会員全体の受講状況の把握は行っていない。</p> <p>3.近畿地区保健指導部会集會に参加し、近畿地区代表と現在の地域における問題点や、取り組みについての情報共有を行い、部会集會で部会員に伝達は行えた。</p> <p>4.今期はコロナ禍の影響で年2回で依頼していた市町村会議は1回になった。周産期会議は委託解除の関係で情報が入らなくなり参加できていない。</p> <p>5.声かけ等は継続的に行った。子育て期のため会での活動困難が理由で退会者あり。</p>
【勤務部会】		
<p>目的：勤務部会の活性化を図る。</p> <p>目標：1. 助産診断・技術の研鑽及び、会員の交流を図るために研修会を開催する。</p>	<p>1-1) 勤務部会集會を開催する</p> <p>2) 勤務部会研修会を助産所部会と共同での開催を検討する。</p>	<p>1-1) COVID-19の影響があり、勤務部会交流会をオンライン部会集會として4/2に開催した。</p> <p>2)勤務部会と助産所部会共同研修会は、次年度に開催となった。</p> <p>〈評価〉</p> <p>2020年度計画の会員交流会は、オンライン部会集會として開催できた。尚、勤務部会会員の交流を図るため、連絡・伝達を整えることが次年度の課題となった。</p>

目的・目標	計画・具体策	評価
【広報委員会】		
<p>目的：ホームページや三部会だよりの編集を通じて、会の内外に向けて助産師会の活動を発信する。</p> <p>1. 内容を充実させ、興味をもって見に来てもらえるホームページをめざす。</p> <p>2. 三部会だよりの読み物としての価値を高め、読むのが楽しみになる紙面を作る。</p>	<p>1. ① ホームページデザインの計画・編集</p> <p>②一般ページの編集マニュアル作成</p> <p>③部会・委員会の依頼を受け編集作業</p> <p>④ホームページパトロール（1回/月）</p> <p>2. ① 三部会便り年4回発行（今年は印刷発送予定）</p> <p>②取材記事・バトン掲載継続</p> <p>③ペーパーレス化に向けた移行期間とし、インターネット配信の準備を行う。</p> <p>3. 広報委員会3回実施（うち1回はホームページ会議とし、様式や内容の方向性を決める）</p>	<p>・新ホームページプロジェクトチームの一員として、ホームページの作成を行った。</p> <p>・部会・委員会の依頼を受け、記事の掲載を行った。</p> <p>・ホームページパトロールを毎月担当者を決めて行き、必要に応じて編集作業を行った。</p> <p>2. ・三部会だよりを計画通り6・9・12・3月に発行した。</p> <p>・2020年は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い取材活動は行えなかった。・ペーパーレス化に向けて、新ホームページに三部会だよりの掲載を始めた。</p> <p>会議をオンラインで2回開催（5/24、1/7）した。その他、LINE,BANDを利用して頻回に意見交換を行った。</p>

目的・目標	計画・具体策	評価
【教育委員会】		
<p>1. 助産師としての資質を高める研修会を計画・開催し、より多くの参加を募る。</p>	<p>1.各部会で受講したい研修のテーマ・内容・講師の要望を取り入れた研修を行う。</p> <p>・勤務部会 CTGの判読、産褥早期の母乳支援</p> <p>・助産所部会 周産期出血</p> <p>・保健指導部会 産後ケア（講義・演習）、母子保健事業・施策 ・災害 ・必須研修</p> <p>計 8講座を予定</p>	<p>1.コロナ感染予防の為に対面式研修会を中止したが、オンライン研修に企画を変更し、11月から5ヶ月で6講座の研修を開催する事出来た。</p> <p>・講座数は減ったが、部会の希望テーマで各1講座ずつ開催する事が出来た</p> <p>・オンライン研修になった事で、欠席者や録画視聴希望者にはYouTubeでの案内が可能となった為、当日不参加でも研修可能となった。</p> <p>・必須研修も不参加の方には録画視聴で対応し、DVD研修の日程調整の必要性がなくなった。</p>

<p>2. 産後ケアの法制化に伴う必要な指定の研修会を企画・準備する</p>	<p>2.日本助産師会の「産後ケア実務助産師研修修了者の指定する産後ケア研修」の開催を行う。</p> <p>・学習項目④地域における保健指導の実際（演習項目を含む）90分4コマ 日本助産師会保健指導部長 淵元純子助産師に依頼し、1日で4コマを取得出来る様、午前・午後2講座の1日研修として企画。</p>	<p>・オンライン研修に変更した事で、受付・振込の時期が繰り上がり、事前の資料送信、終了後の修了証発行等、対面研修以上に、事務作業が増し、同時期に3講座の対応となるなど混乱を極めた。</p> <p>・オンライン研修がスムーズに運営出来る様に、教育会議を8回（内WEB会議3回）行った。</p> <p>・産後ケア研修は、オンライン研修での1日研修に企画を変更し開催。参加者43名（半日参加7名・1日参加40名・録画視聴3名）</p> <p>・オンライン研修であった為、県外からの参加もあり、他県の産後ケアの情報を得る事が出来た。</p> <p>・講演後の演習であった為、事例検討のグループワークでは活発的に話し合う事が出来、充実した研修になったとの感想が多くみられた。</p> <p>・引き続き定期的な開催を望む意見も多かった。</p>
<p>3. フリーメール終了後、研修会の周知、勧奨方法を考え、参加者の減少を避ける。</p>	<p>3.「みんなの広場」、当会認定ツールBANDからの勧奨、他県の助産師への案内・勧奨</p>	<p>3.フリーメールが「みんなの広場」からの配信に変更後、研修案内のアナウンス後の反応が明らかに減少した。（4～5件⇒0～1件） ・前年度比（前年度） 講座数6講座（6）同様参加者259名（287）-28名と減少。</p> <p>・オンライン研修となり、他県の参加者や学生の参加者が増え、非会員の参加は、前年度より25名増加している事から会員の参加が減少した事が伺える。</p> <p>・参加者の減少と共に、収支も482,570円（前年度540,455円）と、57,885円減少した。</p>
<p>4. 事前振込みの周知、実施を呼びかけ研修会のスムーズな運営</p>	<p>4. 研修会がスムーズに開催する為に、事前申込み・事前振込みを確立させる</p> <p>-1) 定期的な研修案内に加え、新ホームページの研修・セミナーのページで、研修の開催内容や事前振込をアピールする。</p> <p>-2) 参加申し込み時に自動返信メールにて事前振込みを案内。その為に申し込みフォームに自動返信機能を追加する。</p>	<p>4. HP・研修アナウンスでの周知により、多少期日の過ぎる方もおられたが、参加者全員が事前に申し込み・振込みが出来た。</p> <p>・振り込みが遅れている方には、振込みを促すメールを送信している事も1要因と考察。</p> <p>・3講座の受付が同時期であった為、入金金額の間違いや振込みが重複すると言う事も毎回発生した為、返信内容に振込み先口座だけではなく、金額も提示した方が良いと思われる。</p>

目的・目標	計画・具体策	評価
【組織強化委員会】		
<p>1.パソコン管理の実現 早急にパソコン指導を受け管理を係だけで行う。</p> <p>2.会員の個人情報保護を徹底を図りながら必要部署への連絡を速やかに適切に行う。</p> <p>3.新入会員の増加を図る。4月には運動を展開すること。総会時に案や協力者を募集する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産師会の研修会やイベント時、入会案内持参し未会員助産師にPRと配布。 ・各病院、個人開業医の勤務助産師に助産師会の魅力を伝える広報活動。 ・学生会員へのPR(助産師養成学校にパンフレット持参・所属会員に依頼するなど) ・助産師会入会メリット研修会1年間無料受講やアドバンス助産師認定研修PR。 ・勤務助産師保険、保健指導保険に加入ができるとPR。 ・看護協会などの潜在助産師研修でPR 	<p>1.組織強化単独でパソコン管理のための指導を早急に受け、管理体制を確立する。パソコン管理の実現、早急にパソコン指導を受け管理を係だけで行う。</p> <p>2.会員の個人情報保護を徹底を図りながら必要部署への連絡を速やかに適切に行う</p> <p>3. 新入会員の増加を図る</p> <p>①4月には運動を展開すること。総会時に案や協力者を募集する</p> <p>②パンフレットを各助産所に配布、設置依頼。その他病院等設置依頼していく。</p>	<p>1. パソコンでの管理体制ができなかった。会員情報が自己変更されていないなど情報修正の必要性があり、個人情報を確認するための登録票作成に取り組んだ。次年度に情報の整理に取り組み、パソコン管理に向けて体制を整えていく。</p> <p>2. 個人情報の変更が周知できていなかったためのトラブルが1件あった。会員情報の修正に取り組み、WEB登録に関する内容も含めて個人情報保護方針を改訂した。各部署への速やかな連絡はとれた。個人情報保護方針を遵守し取り組んでいく体制づくりを図った。</p> <p>3. 新入会員の獲得は、2名であった。</p> <p>①コロナ禍であり、新入会員の増加を図るためHPに改訂したリーフレットをダウンロードできる形で、HPプロジェクトチームと協力して入会案内に載せた。</p> <p>②改訂したリーフレットの設置については、印刷代を来年度予算案に計上し、総会での可決をもって、設置することになる。</p>

目的・目標	計画・具体策	評価
【安全対策委員会】		
〔安全対策係〕		
<p>目的：会の安全文化の向上を図り、安全の視点で業務環境を整備する</p> <p>1 会員それぞれのリスク感性の向上と安全文化の底上げ</p> <p>2 報告しやすい組織体制を整える</p> <p>3 リスクマネジメントの知識を高め、助産業務におけるアクシデントやインシデントを共有・原因分析し安全な看護が出来るよう活動する</p>	<p>1 安全研修開催</p> <p>2 本部主催の安全研修への参加（委員）</p> <p>3 訪問時事故防止セルフチェックリストやインシデント・アクシデント報告書の活用状況の確認・評価</p> <p>4 助産所安全評価の実施及び転院・搬送報告の集計と本部への結果報告</p> <p>5 重大事故発生時の速やかな対応（事例分析委員会）</p> <p>6 インシデント・アクシデント報告ルートの周知</p> <p>7 訪問指導及び地域での保健指導のチェックリスト活用と評価</p> <p>8 各助産所に2022年までに日本助産所評価機構の評価を受けるための準備を勧める。</p> <p>9 会の安全マニュアル作成について：必要性・予算・内容等企画案から着手</p>	<p>1 新型コロナ感染症の拡大防止のために開催せず</p> <p>2 2月6日に安全対策係がズーム会議参加</p> <p>3 集計終了、保健指導部会との確認作業が必要</p> <p>4 10月からIT報告のシステムが変更になっており転院・搬送報告はITデータ化されることになる。 助産所安全評価はここ数年自己評価のみになっていたが、安全のためにより厳密性が求められている</p> <p>5 部会にて症例検討を重ね、報告済</p> <p>6 保健師指導部会はスムーズな運用で定着している。助産所部会は10月からのIT報告システムの変更に伴い、新たなフローチャートを作成（2021年3月）</p> <p>7 6月からは新型コロナ感染症予防マニュアルを作成し、訪問助産師、訪問先の母子及び家族の検温、体調チェック項目も加味し実施中</p> <p>8 その方向性を目指す助産所も存在</p> <p>9 2021年1月理事会において作成委員会発足について承認を受け、2月から着手</p>

目的・目標	計画・具体策	評価
〔災害対策係〕		
<p>1. 助産師会としてできる災害対策予防行動、災害発生時の対処行動を具体的に実行できる方向性を確立する</p> <p>2. コロナ感染と災害が同時発生した設定についても想定する対処を検討。</p> <p>3. 妊産婦、母子を対象にしたホームページの活用を促進し、災害予防行動についてわかりやすく示す</p>	<p>1. シェイクアウト訓練実施</p> <p>2. 日本助産師会災害研修参加し各都道府県の災害対策の現状課題を共有</p> <p>3. 安否確認（毎年2月第1火曜日）実施</p> <p>4. 災害積立募金の継続</p> <p>5. 第7回災害対策研修会開催 2/16に実施 参加者23名</p> <p>6. 奈良県助産師会災害対策室会議の開催(年4回)</p> <p>7. 防災マニュアルの作成、事務局の避難誘導手順完成</p>	<p>1. シェイクアウト訓練はコロナの緊急事態宣言下で延期</p> <p>2. 11/21開催 日本助産師会対策オンライン会議 災害対策委員3名出席</p> <p>3. 安否確認訓練は今年度、勤務部会は行っていない。県北部での災害想定で会員の被害状況及び県内でできる応援体制情報を集約し本部報告するというシュミレーションを追加実施。次年度課題として勤務部会の連絡系統及び参加について検討</p> <p>4. 研修会で募金箱を設置し募金予定がオンライン研修にて未実施。2020年度広域災害に対して義援金を本部と協議し募金。義援金のための募金ができていないので今後の課題</p> <p>5. 本年度の災害研修は、クラスター予防にて急ぎょオンラインでの講義グループワークを行い、県内の災害対策について考え、会員同士がつながる場となった。 26名中1名録画参加・看護協会職能委員会より参加1名</p> <p>6. 対策会議は第3回よりコロナ禍にてオンライン会議 災害マニュアルは母子啓蒙用はHP掲載済</p> <p>7. 母子用の啓蒙用の減災・災害マニュアルはHP掲載し本年度の目標に沿っている。 災害マニュアル会員用は本部承認に至ってない。次年度の課題</p>

目的・目標

計画・具体策

評価

【公益事業委員会】

〔健康教育係〕

<p>目的) 出前講座の質の保証と発展を図り、地域の人々の健康の改善・向上に貢献する</p>		<p>今年度 出前講座依頼数80件(実施62・中止18) 出前講座実施数69講座</p>
<p>目標</p>	<p>1-①研修会、HPでの明確な活動提示と募集チラシの作成・配布</p>	<p>1-①新HPでの活動提示のみ実施。</p>
<p>1. 担当者の確保(20名)</p>	<p>1-②勤務部会会員に向けた講座見学募集を行う</p>	<p>1-②新型コロナウイルス感染拡大状況により講座見学実施できていない。</p>
<p>2. 出前講座評価の活用</p>	<p>2-①評価表のデータ化し分析結果を提示する</p>	<p>→講座担当者17名(新規確保できず)</p>
<p>3. 教材の充実と管理</p>	<p>2-②評価に基づく具体的な活動の改善策立案と共有</p>	<p>2-①年度末の担当者会議にて途中集計を提示</p>
<p>4. 会議の充実</p>	<p>3-①教材の購入計画の立案と手順整理</p>	<p>2-②依頼先から改善提案はなし。非常に良い・良い併せて98%以上と高評価を得ている。</p>
<p></p>	<p>3-②定期点検・修繕を行い、搬送・保管の工夫を明確にする</p>	<p>3月末日に最終集計実施。次回担当者会議で共有予定(3月24日現在60講座分返送あり回収率86.9%)</p>
<p></p>	<p>3-③新教材の購入(新胎児人形一式)</p>	<p>3-①購入手順の再確認・内容整理実施した</p>
<p></p>	<p>4-①講座実践における気づき、疑問点の共有</p>	<p>3-②事務所内の所定場所へ保管、新教材の収納袋作成、適時教材の点検を実施</p>
<p></p>	<p>4-②発達段階に応じた講座のテーマを挙げ担当者間での方法論の研鑽を行う</p>	<p>3-③購入済み</p>
<p></p>	<p>4-③講座の安全管理徹底(個人情報保護、感染症対策等)</p>	<p>4-①共有できるよう環境整備を行った(zoomチャット・BAND等)</p>
<p></p>	<p></p>	<p>4-②研鑽の時間を確保することはできなかった</p>
<p></p>	<p></p>	<p>4-③各種マニュアル作成し状況に応じた見直し・改訂をはかった</p>

目的・目標	計画・具体策	評価
〔子育て支援係〕		
<p>目的：助産師が地域において子育て支援の拠点を推進することによって、子育ての不安を緩和し、子供とその家族のすこやかな育ちを応援する。</p> <p>1妊産婦とその家族における子育て支援の継続ができる。</p> <p>2企業依頼の育児相談や講師依頼を継続、拡大する。</p> <p>3会員に子育て支援の動向をしらせ、協力とマンパワーを確保する</p> <p>4子育て支援の新たな情報を得る</p>	<p>1.子育てイベントの開催（自由に親子が参加できるイベント）</p> <p>2.ホームページを改善し、助産師会の活動をアピールする。助産師の活動を企業に伝え、企業依頼を増やし、運営資金を増やす。</p> <p>3.毎回の広報に子育て支援の動向を掲載する。</p> <p>4.他府県の子育て支援の運営を見学し学び新たな企画をする。（会員向けの講座も含める。</p>	<p>今年度は、コロナの影響で、子育て支援係として対外的な活動はできなかったが、新ホームページに、Googleマップと連動させた助産所マップの掲載や具体的なQ&Aなど、わかりやすく情報を発信することができた。</p> <p>コロナの状況が落ち着くまでは、対外的な相談事業の再開は難しいため、引き続きウェブ上でできる子育て支援について考える必要がある。</p>

〔委託訪問係〕		
<p>1.業務改革</p> <p>2.市町村との委託事業継続のためのマンパワーを確保する。</p> <p>3.母子のために安全・安心なより良い助言、指導ができるよう指導員のスキルアップをはかる。</p>	<p>1.役員会、保健指導部会と協同し、委託訪問事業としての業務内容を検討する。</p> <p>2.マンパワーの確保に努める。</p> <p>3.奈良県助産師会教育研修、日本助産師会研修等への参加、2回の事例検討、1回の勉強会を行いスキルアップをはかる。</p> <p>4.新規訪問指導員へ充実したオリエンテーションを行えるよう内容を検討する（訪問開始前～）</p> <p>5.市町村会議出席および保健センターとの連携を図る。</p>	<p>1.委託訪問係が保健指導部会会長・副会長と兼任になり、事業としての業務内容を検討はできていない。</p> <p>2.新規訪問指導員2名面談を行った。橿原市、大和高田市、斑鳩町との委託契約となる予定。しかし、南部の市町村に不足状態が続く。</p> <p>3.コロナにより、コロナの感染対策の事案が優先となった。ロタウイルスワクチン予防接種についての勉強会をした。症例検討については、コロナの症例が出た場合のインシデントレポートについて意見交換を行った。</p> <p>4.新規訪問指導員2名には通常通りのオリエンテーションとなった。充実を図る内容の検討ができていないため来年度の取り組みとしたい。</p> <p>5.市町村会議がコロナでないところもあったが、会議のある所には出席した。2回/年の会議が定着してきている。</p>

	6.ホームページを有意義に活用する	6.新しいホームページとなり、保健指導部会の活動について紹介した。 総評：市町村会議に出席し、各市町村でのコロナ感染対策や警報時発生時の対応などをすり合わせができた。また、契約書に盛り込んでほしいことの意味表示ができた。今後も感染マニュアルを活用し母子環境と訪問指導員が守られているのか検討が必要。
--	-------------------	--

目的・目標	計画・具体策	評価
〔不妊相談センター〕		
<p>1.傾聴につとめ、共感し、相談者自身が自己決定できるような☒談に努めることができる。☒</p> <p>2. 専門的な相談や人生相談に対応できるための研鑽を深める。</p> <p>3. 新たな担当者の確保を目指す</p>	<p>①不妊関連の研修会に積極的に参加し、知識理解を深める。</p> <p>② 男性不妊治療に関する知識理解を深める。</p> <p>③カウンセリング法に関する知識技術をふかめる。</p> <p>④ 新しいメンバーの参加を募り、不妊相談の活性化を図る。☒</p>	<p>・コロナ対策の為、面接相談中止され、電話相談のみの対応となった</p> <p>・ 電話相談数 68件 面接相談 0件☒</p> <p>・ 40歳以降の高齢不妊の相談20件,29 %☒</p> <p>・ 男性不妊相談16件24%、男性不妊の専門医が少ない為、対応が困難であった。☒</p> <p>・ 新メンバーの参加はなかった。</p> <p>・ 傾聴共感に努め、相談者の自己決定を支援を行うことができたと思う。</p>

